３．指導の留意点

Q　指導者は、どんなことに一番気をつけたらいいのかな？

A　子どもがたくさん話すように授業を進めることが大切！
指導者が一方的に話す時間を減らすことがポイントだよ。

Q　子どもが指導中に飽きないようにするには、どうすればいいのかな？

A　レアリア（実物）をたくさん使って、「体験できる」活動をたくさん行うといいよ。
あと、同じ活動を長くしないことも大切ね。１０分くらいが目安よ。

Q　教え方のコツってあるの？

A　「やさしい日本語」でのコミュニケーションを心がけてね。
（p.9 参照）

Q　ジェスチャーなどで気をつけるものって、あるのかな？

A　それぞれの国の文化や慣習によって、気をつけるジェスチャーが違うよ。
たとえば首を横に振る動作は、日本では「いいえ」を意味するけど、インドなどでは「はい」「わかりました」の意味になるよ。
あらかじめ調べておくことが大切ね。（p.9 参照）

やさしい日本語のコツ

（１）１つの文を短く言う。

＜例＞　昨日言ったように、今週の土曜日、雨が降ったら、運動会は中止になるから…。

⇒　昨日、みなさんに言いました。もう一度言います。

今週の土曜日、雨のときは、運動会はありません。

（２）はっきり最後まで言う（省略しない・曖昧な表現は避ける）。

＜例＞　そんなことしたら、危ないと思わない？

⇒　危ないです。やめてください。

（３）できるだけ「です・ます」を使う。

＜例＞　体育の授業は、体操服がいるもんで着替えやなあかんのさ。

⇒　体育の授業は、体操服を着ます。

（４）オノマトペ（擬音語・擬態語）は使わない。

＜例＞　雨がザーザー降りになってきたから、サッと中へ入りましょう。

⇒　雨がたくさん降ってきました。すぐに中へ入りましょう。

（５）敬語は使わない。

＜例＞　本日は、こちらにご参加をいただき、心より御礼申し上げます。

⇒　今日はここに来てくれて、ありがとうございます。

気をつけるべきジェスチャーの例

（１）頭をなでて、褒める。

⇒　タイ・スリランカなどの仏教の国では、頭をなでるのは失礼にあたります。

（２）「お金」の意味として、人差し指と親指で輪を作る。

⇒　中南米では、「タブー」とされています。

（３）首を横に振る

⇒　スリランカ、バングラデシュ、インドでは、「はい」「わかります」の意味です。

◇子どもがつながりを持つ国の文化や慣習について、あらかじめ調べておきましょう。